



© 小林正典

認定NPO法人
幼い難民を考える会
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES

2011年3月
NO.97

Children, Our Future

子どもたちの明日

目次

CYR設立30周年記念 カンボジアスタディーツアーに参加して！	2
カンボジア織物 草木染めが仕上がるまで	4
CYRスタッフの1日 ペン・ツパール	5
10年以上の支援者のみなさまからのメッセージ②	6
国内活動 リコージャパン&株式会社リコー	6
カンボジアの保育園で見つけたふしぎな道具?! 水がめ	8

幼い難民を考える会（CYR）は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



カンボジアスタディーツアーに参加して！

2010年10月31日～11月7日に、11名の支援者のみなさんがカンボジアスタディーツアーに参加されました。保育園の子どもたちとの交流や織物体験、遺跡観光など盛りだくさんの8日間。「いちばん印象に残ったこと」を聞いてみました。



「5歳の笑顔が未来をつくる」というメッセージは、幼少期の子どもたちの笑顔こそ、未来への大切な宝物だという想いから考えついたものです。今回、現地の保育園や小学校で、そんなたくさんの笑顔に出会えたことは何よりの喜びでした。かつての日本もこうした笑顔と希望に満ちた国であったように思います。困難な中でも逞しく生きていくエネルギーを肌で感じる事ができたツアーに感謝いたします。

会員、広報協力者
青木 一夫 さん



左奥が堀木さん

これって本当？カンボジアという国家の政策は、外国からの援助を前提にしている。売上税という間接税はあるが、個人所得税の徴収はない。金持ちは住みやすい。国民は不勤勉、ゆっくり。こんな国に援助してやるものか。でも、愛くるしい子どもの顔を見ちゃうと捨てておけないんだな。一昨年は外遊具、今年は先生の卵に奨学金の援助。CYRのみなさん、サポーターさん、気長にやりましょう。

寄付者
堀木 宏行 さん

おいしい給食にしよう！と準備をがんばっている給食係のおばさん。その同じ敷地内で、子どもにお菓子を売っている人がいたので誰かと聞いてみると、「売っているのは先生の親戚で、買っているのはお金持ちの子どもたち」とのこと。少しでも現金が必要なので、物売りを見逃しているという現実。せめて学校内だけは、子どもたちが等しく教育を受ける場にできないものかと思いました。

会員
浅井 信子 さん



5年振りのプノンベンには、バイクは新車が多く、キレイに磨かれた車が整然と走るメインストリートなど以前に比べ隔世の感があります。しかし着実に変化を続ける都市部と対照的に、周辺部には5年前と変わらない生活が現実としてあります。相対的に広がっていく格差の前で私たちができること、やるべきことは何か。負の補完とならない活動を、変わらぬ子どもの笑顔と一緒に深く模索しなければならぬと感じました。

会員、元理事
高橋 隆岱 さん

保育園では、ペープサートや手品、リコーダーの演奏、手遊びや歌を子どもたちや先生に見せながら、一緒に楽しい時間を過ごせました。お絵かきの活動では、私が手品をした時に風船を膨らませたのを見て心に残ったと、まあい風船をたくさん書いてくれた子がいて、言葉が分からなくても感じ取ったことを絵で表現してくれたことが嬉しかったです。この貴重な体験を今後の保育の中で活かし、子どもをはじめ多くの人に伝えていけたらと思います。

保育士、東南アジア保育支援実行委員会
沼上 征也 さん





プノンペンのレストランやマーケットなど近代的街並みが物語る発展と、そのすぐそばの廃墟やバラックとのギャップ、周囲の農村の置いていかれっぷりが印象的だった。戦後復興が終わらないまま高度経済成長やIT革命が同時に起こっているような様子。さぞ社会の歪みや問題も多いことだろうと思う。だからこそ、この先の未来を担っていく子どもたちが守られねばならないと感じた。



会員、明治寺住職
草野 榮雅 さん

左が草野さん

「布チョッキンワークショップ」のご協力者から、現地でのように縫製されているかをよく質問されます。今回、縫製者の家庭訪問では、厳しい生活環境にあることが一目瞭然でした。給食費が払えない家庭や生活の手立てのない家庭などにきめ細かい配慮がされていることが、よく理解できました。縫製者宅訪問という微妙で難しい手配に感謝します。今後の活動で生かせる大きな収穫を得ました。

理事、あいち支部長
高木 正彦 さん

今でも時々思い出すのは、各地の子どもたちの笑顔です。「とても貧しい地域なのですよ」と言われて歩いたスラムで出会った笑顔は生きる力があふれていて素敵でした。村の保育園では、給食を食べ終わった私の食器をそっと片付けてくれた温かい笑顔がありました。地雷、貧困、教育の遅れなどは知っていましたが、ツアーでは全く違う顔に出会いました。今後はこの笑顔が続くよう考えていきたいです。

会員、東南アジア保育支援実行委員会
宮坂 知代 さん



右が宮坂さん

カンボジアの幼稚園や小学校を実際訪問してみて、物をあげることも、その人が将来自分の力で生きていけるように技術を伝えることが大切だと強く感じました。布チョッキンも、村のお母さんたちや子どもたちの役に立っていることを自分の目で見ることができ、貴重な体験となりました。実際に現地に行かないと分からなかったことがたくさんあると思います。今回参加できて本当に良かったと思いました。

あいち支部ボランティア、大学生
横井 真莉奈 さん



実際に縫製や織物をしている女性の姿を見て、CYRの活動がきちんとカンボジアの人のためになっていると分かり嬉しく思いました。一番印象に残ったのは、保育園を訪問して元気な子どもたちと遊んだことです。子どもにとって栄養のある食事と遊ぶ場所があることが本当に大切なのだと感じました。カンボジアの現状を知ることができ、カンボジアの人のためにもっとがんばろうと思いました。

あいち支部ボランティア、大学生
横山 貴代 さん

一番心に残ったのは、子どもたちの笑顔です。一生懸命遊んで、学んでいる子どもたちのキラキラまぶしい笑顔がとても印象的でした。小学校では、持参した会話帳を使い、簡単なコミュニケーションをとることもできました。楽しそうにクメール語を教えてくれる姿を見て、とても嬉しかったことを覚えています。今までCYRを通じて見ることのできた子どもたちの姿を実際に見て、触れ合うことができ、とても有意義な旅となりました。

大学生
福本 文佳 さん



右が福本さん



カンボジア織物 草木染めが仕上がるまで

長い間、カンボジア織物には自然から採れた染め材が使われてきました。樹木や植物の葉っぱ、樹皮、種、実など、季節に応じて種類はさまざまです。何世代も受け継がれてきた自然染色ですが、ポルポト時代に失われ、その後は化学染料に取って変わるようになりました。織り手の多くは、同じ収入を得られるなら簡単で安く染められる化学染料を選びます。でも、化学染料は環境や人に有害で、地面に吸い込まれると井戸水などが汚染される危険もあります。

CYRの研修では、草木染め100%の製品が作れるようにがんばっています。この経済不況の中で、織り手に自然染色を推奨するのはとても難しい仕事です。実際、すぐにお金が入らないと日々の生活に困ってしまうため害などはあまり考えないし、鮮やかに染まる化学染料の色は、新しくオシャレというイメージもあるからです。ひとつひとつ思いを込めて丹念に草木で染められた布は、深みのある素晴らしい作品です。今回は、CYRで行っている草木染めの作業をご紹介します。



① 括り(くくり)

糸の染めたくない部分にビニール紐を縛ります。この作業を括りと呼び、織物の模様が決まります。

② 1色目の染め「ラック」を砕く

カイガラムシの体液が樹脂となって固まったラックを細かく砕きます。

③ ラックを煮出す

②のラックを煮出して染液をつくります。



⑦ 2色目の染め「プロフー」

プロフーの染液は、木の樹皮を砕き、煮出してつくります。括り紐の位置を変えて染液につけた後は、⑥と同じ作業を行います。

⑧ 2色目のできあがり

⑥で白かった部分はプロフーで黄色に染まり、ラックで染まった部分はプロフーを重ねた色になります。

⑨ 灰汁(はいじり)で洗う

木の枝などを灰にしたものに水をかけて灰汁をつくります。⑧の糸を灰汁につけて洗います。プロフーの色を明るくする効果があります。

DVD発売
「カンボジアの織物が出来るまで」(27分)



- 価格: 2,500円
※草木染めハンカチ付で3,500円
※草木染めふろしき8付で5,500円
- 送料・手数料: 200円

お申込はCJRまで
TEL: 03-3943-6971
E-mail: info@cjr.or.jp

制作協力: 妙画社/MAXIMEDIA



大木朋子さん(織物専門家)

2010年、草木染め研修担当・現スタッフ

草木染めは、技法がさまざまでも手間がかかります。染める季節、染めの材料を採集する時期や場所、水などの違いによっても染め上がる色が変わってきます。多くの経験(失敗)を活かし、正しい知識を身につけて質を高めていってほしいです。



ラックとプロフーの糸からこんなにきれいな布が織りなされます。



④ タマリンドの葉を煮出す

別の鍋でタマリンドの葉を煮出して、染液をつくります。発色を良くして色落ちを防ぐ効果があります。

⑤ ラックとタマリンドを混ぜる

③と④を混ぜた液体で①の糸を染めます。

⑥ 叩いてまた染める

しっかりと染まるように20回ほど糸を叩き、また⑤で煮染めします。3セットくらい繰り返してできあがると、①で括っておいたところが白く残ります。



⑩ 「チョンブー」で染める

チョンブーの染液は、木の種を煮出してつくります。括り紐の位置を変えて染液につけた後は、⑥と同じ作業をします。プロフーの黄色が光沢をもった濃い色になります。

⑪ 鉄媒染液につける

砂糖やレモンを使って鉄を錆びさせて作った鉄媒染液を準備します。⑩の糸をさらに紐で縛ってくり、鉄媒染液を薄めたものにつけて糸の色を濃くした後、煮染めします。

⑫ 染めの過程のおさらい

こうして何度も染め重ねを繰り返して糸が完成した後、織り機にかけていきます。乾かす時間なども入れると、染めの作業だけで4~5日ほどかかります。



CYRスタッフの1日

CYRの活動はなんとなく分かるけれど、実際のスタッフは何をしているの?!
みなさんからこんな疑問が寄せられました。
意外と見えにくいNGOスタッフの仕事。
今号からひとりずつご紹介していきます。

ペン・ソパール (30)

カンボジア事務所
織物研修事業調整員(2005年~)

大学で経営学を学んだ後、健康グッズ販売会社の勤務を経てCYRへ。漠然と「利潤追求だけではなく、貧しい人のためになる仕事がしたい」と思ってきた。CYRの仕事を通じて、貧しい人たちが自分の力で収入を得られるように支援することの大切さを感じている。

主な仕事

- ・織物事業の計画・予算づくり
- ・実施評価・報告書作成
- ・織物研修先の村の調査など

7:25

事務所到着



バイク通勤で25分♪

6:00起床

9:00

織物巡回研修で
全体進行役を務める



これまで打合せを重ねて準備を進めてきました。

7:30始業。
朝礼に出た後
現場へ移動

11:00

日本からの注文製品の
改善点をトレーナーに相談



オーダーと違ったために返品された製品の改善点やフィードバックを伝えています。

12:00

織物研修センターで
ランチ



カンボジアのお昼休みは2時間!お昼寝したり、水浴びしたりしてゆっくり過ごします。家に帰って家族と過ごす人もいます。

14:00

新しい研修生の面接



研修トレーナーと一緒に決定します。

これからの チャレンジ

織物の品質をもっと高めること!特に草木染めに力をいれて、一般の人にも、もっと良さを知ってもらいたいです。

17:00に仕事を終えた後、パソコン教室に通って20:00頃帰宅。夕食を済ませて22:00頃就寝

15:00

研修卒業生の
フォローアップ



自宅で織物を続ける卒業生を訪問して、研修のフォローを定期的に行います。

15:30

研修卒業生の
布の買い上げ



日本で販売している製品は、ここから作られています。

休日?

実家のご近所さんと集まったり。自然の中の静かな場所でゆっくりと過ごすのが好き。仏教の本を良く読む。

10年以上の支援者のみなさまからのメッセージ②

CYRは約1,500名のみなさまに支えられて活動を続けています。

設立30周年を迎えた節目には、10年以上ご支援いただいているみなさまにアンケートを行いました。継続的なサポートの理由や活動への率直なご意見がたくさん寄せられ、スタッフ一同大変励まされました。メッセージの一部を連載でご紹介します。

今大学で学んでいらっしゃる卒園生の将来の夢や意見は、読んでいて心温まるものがありました。ニュースには子どもたちの写真や「生の声」がたくさん盛り込まれているので、とてもリアルに様子が伝わってきます。日本とは比べようもないほど厳しい現実がありながら、子どもたちの笑顔は何と美しく輝いていることでしょう。心が洗われる思いです。スタッフのみなさまのご健康と、一層豊かなご活動が広がりますようお願いしています。

支援暦25年
片平 百合以 さん

「植えた木が大きくなって木陰を作ってくれた。新しい土地でもまた木陰に恵まれるように…」という、難民キャンプからカンボジアへ向かう子どもたちを見送る記事のことを、今でも良く覚えています。写真の子どもたちは、今の日本ではなかなか見られない表情ですね。長く続ければ良いというわけではありませんが、続けるということは大変なことです。活動内容に納得して会員となったのですが、いろいろなことがきちんとしてさらに納得しています。

支援暦28年
坂本 憲子 さん

ニュースレターで見る子どもたちの笑顔が大好きです。現地のみなさんが少しずつ自立して、自信をもって生きていけるよう、粘り強い活動を支援したいと思っています。参加型のボランティアなどを通じて、より多くの人たちがアジアや世界の子どもたちに関心を持ってもらえるといいですね。いつか私もカンボジアの地を訪れてみたいと思います。

支援暦25年
関口 博美 さん

国内活動

Thank you!

CYRカンボジアの活動は、
さまざまな日本での協力に支えられています。

企業

できることを、できる範囲で、少しずつ

リコージャパン株式会社 Net販売担当 三野真紀子さん
株式会社リコー FreeWill担当 北條総子さん



FreeWillキャラクター
「愛のひと」



いただいた物品はこんなにたくさん！CYR事務所



三野さん(左)と北條さん(右)

リコーグループでは、社員主導の草の根支援組織「リコー社会貢献クラブ・FreeWill」を1999年に設立し、社員からの募金や収集ボランティア、サンタプロジェクトなどを通じて、現在までに様々な団体に幅広く支援を続けています。

CYR様へは2005年6月に、カンボジアの織物研修センターへ研修用の材料と緋織りコース・無地織りコースの研修費を寄付いたしました。

その後もFreeWillのプロジェクト活動や弊社Net通販で取扱っている事務用品の寄贈と、支援を継続しております。

CYR様からは毎年活動のご報告をいただき、多少なりともお役に立てているのだと実感でき、継続の意欲も高まっています。今後とも、CYR様やカンボジアの子どもたち、またリコーグループ社員も笑顔になれる活動を続けていきたいと思っています。

カンボジアの保育園で見つけた ふしぎな道具?!

水がめ

ここに雨水をたくさん溜めて、
全ての生活用水に利用します。

トイレの水、手洗いの水、水浴びの水、
野菜や花にまく水、食器を洗う水、給食を作る水などなど!

蛇口はないから柄杓ですくって使います。

水道のない保育園には、欠かせない大事なモノ。

蓋をしないと、虫が入ったりホーフラが湧いたりするので、
蓋はとても大切です。

雨が降ると、
大急ぎでこの蓋を取って雨水を溜める先生たち。

乾季になると、溜めておいた雨水が無くなることもあるので、
リヤカーやトラックで売りにくる水を買って、
水がめに入れておきます。



目標 1,000人 給食がつくるカンボジアの未来 「月いち募金」サポーター募集

銀行口座、郵便局、クレジットカードを使って自動引き落としで寄付ができます。
日に換算すると、1日30円=カンボジアの子どもたちの給食約1食分!
ぜひご協力ください。

特徴

1. 毎月、自動引き落としなので、振込みの手間が不要です
2. 毎月最低1,000円から、金額を設定して募金できます

お申込み方法

同封の月いち募金チラシの裏面(お申込書)にご記入いただき、ご返送ください



CYR写真集(2,000円)を
プレゼント!